語笑樂三題咄

異國人　芝居　藝者

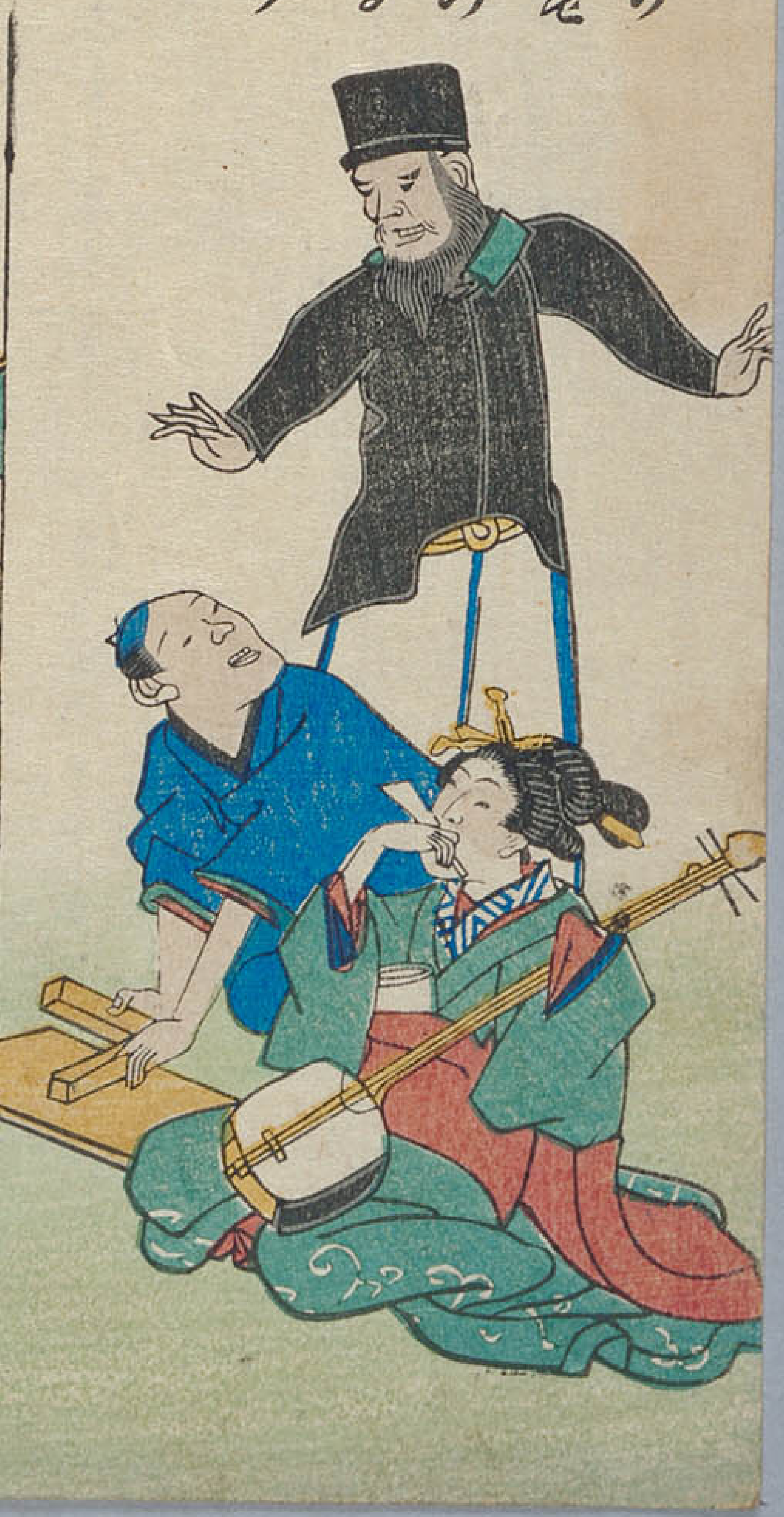
ある殿さまお客さまつれ中村座へ行きけんぶつしけるに國性爺の狂言にて梓千郎の和藤内田之助の錦祥女三郎の寛輝老中將の花一官が姫をつとめて親子兄弟名のりがきもんで大のきのきさいをあげて男さをつとめ夫が功を待つひとゐく姫の目剣に流る紅鬼輝が嫡さきれつく泣を見て物しておりしが「モシ旦那異人でも見ればようつて何をすもへ「ウサあの女の死ぬ時へ死物かんになん何故か「和藤も肉ごとをありかすまするへ「ナゼ「あの人は藝人でムります「アカんきさ當りか

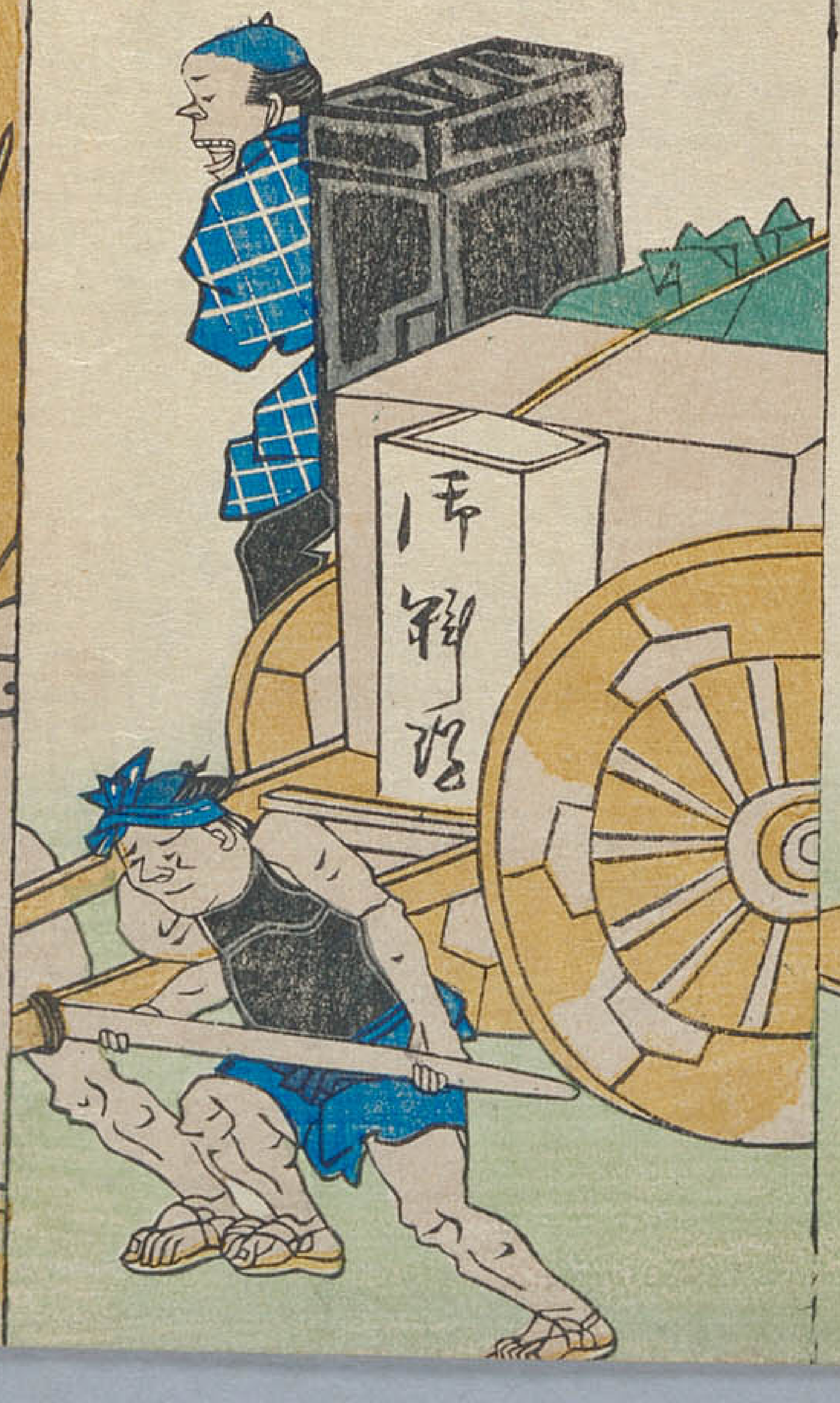
横濱　車力　料理

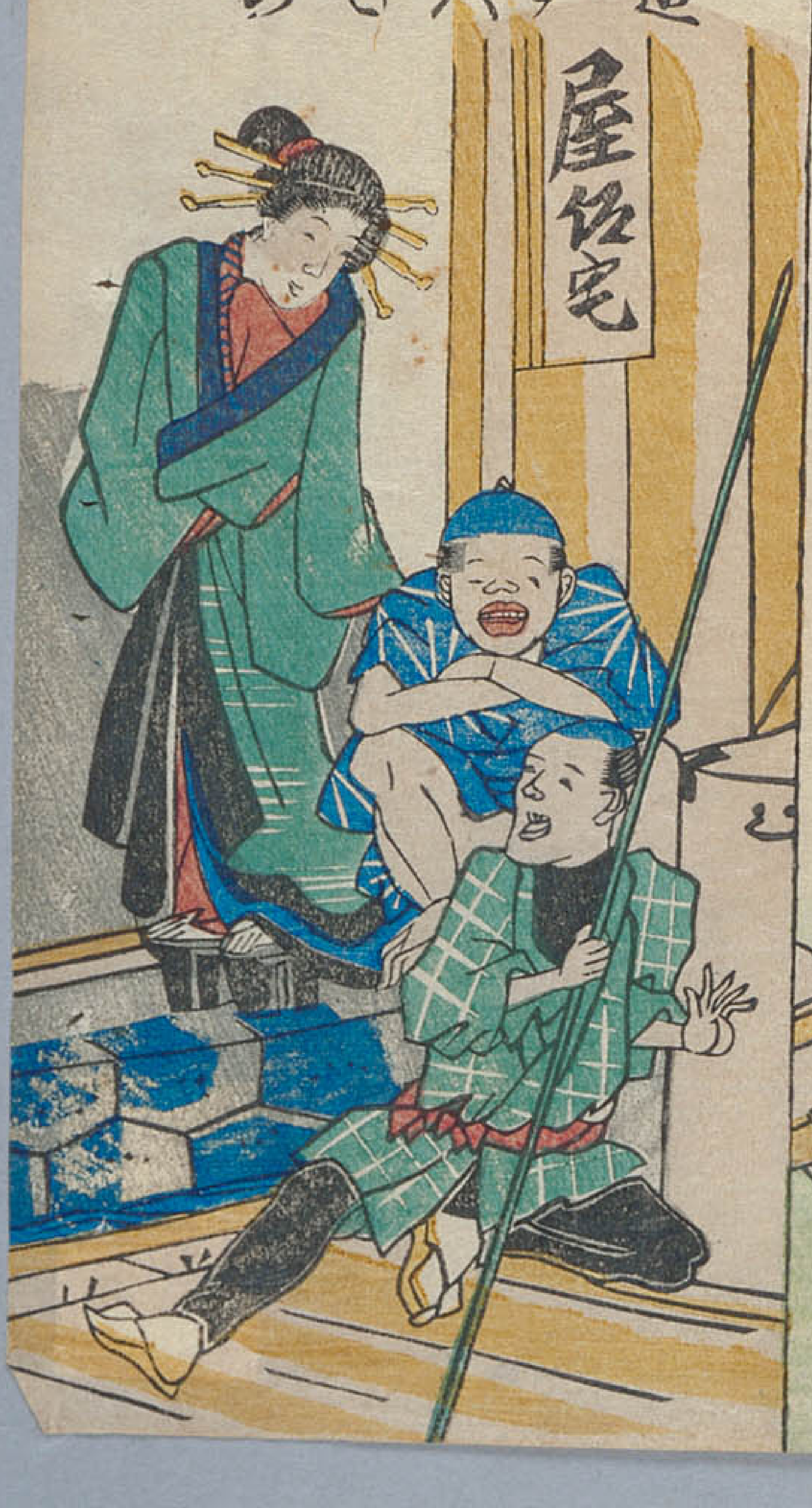
お江戸の車力にも日毎に錢をもうけしるぐ是まかく申されぬが十人ばかりつれの申し合せ横濱をけんぶつにゆんとそれぞれ志ざして繁入出立しが彼の横濱にいつりと見まで物をおしけんあつしてその日は港崎にある岩亀樓にと泊りけ茲にて料理をのひつけ何かめづらしいのを出しとゆひそれぞれ出しる器の中を見ると皆車ゑびなりければこれこそ車力とあつかふなれとさしもの十人もれば十人だけ閏をはずしておれば又ぞろが車力も濱の姫やらしつく人

田舎　茶船　仮宅

二合半領の百姓江戸の親類の家内撫退の為具なぞ茶舟につみて近うんの辺りて江戸ぬよりのり出し深川辺の岸に船をつなぎひ中含はつうんと仲町のえん方が家々の姫のふさ風をみて驚き連の人に問ふに「モシこのきらぎらしいのはなんでござりませう「これらみんな仮宅でてゐるのさ「わしらきんなもが安らねえますせ「そのまづさ吉原江てんのゆきものなどなものをかん安といふと本家そのしれがれんでしらう一女郎が部屋を出てハゲシヤウ「おらわきゃアあやアくろう







語笑楽三題咄　チ5-4009
早稲田大学図書館蔵／Waseda University Library